

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

(茨城県)

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	新治村立斗利出小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	18	18	20	21	12	16	1	106	

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

一人一人に確かな学力をつける指導法の研究

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生～6年生国語(すべての学習の基礎基本の教科であるため)

1年生～6年生算数(子供の理解度・定着度に差が出やすい教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ

国語科における話し伝える力を育てる指導の在り方

算数科における考える力を育てる指導の在り方

仮説

- ・話し合う活動を多く取り入れ、場の工夫に努めれば、より深く理解し、伝え合う力を伸ばすことができるであろう。
- ・声に出して読む音読を充実・工夫させ、その楽しさを味わわせれば、読み取る力が高まり、相手に伝えようとする表現力を育てることができるであろう。
- ・書くことが楽しくなるような題材を提示すれば、意欲的に文章に表現しようとする力がつくであろう。
- ・個に応じたためあてを持たせ、意欲的に学習に取り組む工夫をすれば、基礎的・基本的な技能の習熟を図れ、確かな学力の向上につながるであろう。
- ・既習事項を活用し、操作活動や体験的活動での自力解決、友だちとの比較検討、相互学習、一斉学習等で問題解決学習を進めれば、学び方がわかり、確かな学力の向上につながるであろう。

研究内容・方法

(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

教科担任制の導入 TTでの授業実践(コース別, 少人数)

授業研究での仮説検証

(2) 発展学習や補充学習の教材作成と活用

校内研修の実施

特設学習時間の位置付け

レベルアップ, はなまるタイム, まなびたいむ

練習の徹底・・・100マス計算，視写，音読，漢字練習

(3) 学習環境の充実

斗利出小学校で身につけさせたい基礎・基本の設定

(4) その他

標準テストによる学力の分析と考察

家庭への意識啓発活動(アンケートの実施，文書等での情報公開)

平成
15
年
度

テーマ

国語科における伝え合う力・算数科における考える力を育てる指導の在り方
仮説

- ・身近な言語環境を整え，話したり聞いたり，読んだり書いたりする言語活動の日常化を図ることにより，言語能力も育つであろう。
- ・評価の観点を明確にし，授業の過程における評価を行うことで課題が明確になり，伝え合う力を伸ばすことができるであろう。
- ・基礎的・基本的な技能の習熟を図るための手だてを工夫し，学ぶ楽しさを味わわせることにより，自ら進んで考えようとする態度が高まるであろう。
- ・既習事項を活用し，算数的活動を取り入れた場の構成を工夫すれば，見通しを持ち，筋道を立てて考える力が育つであろう。

研究内容・方法

(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

教科担任制の実施(2～6年生)(国・算・理・社・図・音・家)

TTの実施(1～6年生)(国・算・図・体・総)

学習形態・TT等についての校内研修・提案授業による実践・協議

(2) 教材研究と指導計画についての検討

単元指導計画の見直し

- ・各単元における基礎的・基本的事項・到達規準の明確化
- ・交流の場や自力解決・学び合いの場の設定
- ・補充・発展学習，少人数学習の教材開発

(3) 評価の工夫

評価基準の見直し

到達度と定着度の把握(学びの過程・小テスト・一斉テスト等)

自己評価能力の育成(自己評価カード・相互評価カードの活用等)

(4) 学習環境の充実・学びの基礎力の育成

特設学習時間の位置付け

- ・レベルアップタイム(朝自習の時間)・・・読書・計算等(担任中心)
- ・はなまるかんじタイム(水曜日)・・・漢字の読み書き等(担任+TT)
- ・さんすうまなびタイム(学期1回)・・・全校での算数的活動の時間
- ・補充学習・・・(随時・特設)・・・一人一人の学習状況に合わせた課題

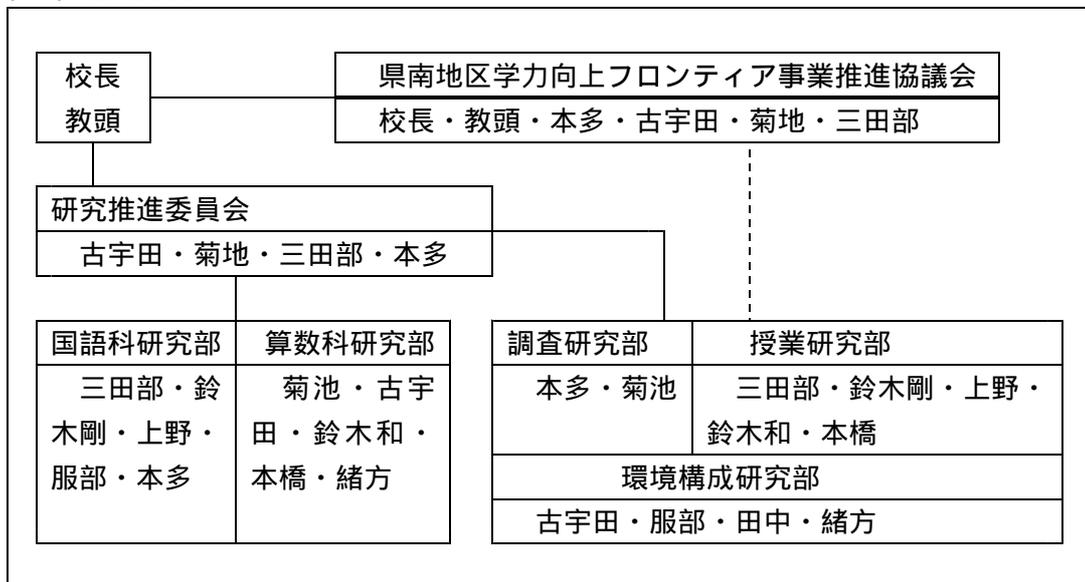
家庭学習の励行

- ・スタディタイム・・・補充プリントや自主学習(担任+TT教員)

平成
16
年
度

<p>テーマ</p> <p>一斉授業の中でいかに個に応じた指導を展開し，確かな学力を身につけさせていくか。</p> <p>仮説</p> <p>前年度までの研究を元に，確実に身につけさせたい学力を明確にし，個に応じた指導と評価を工夫・改善することで，一人一人に確かな学力をつけさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導のための方法・体制の工夫改善 ・個々の評価・分析を生かした教材研究と指導計画についての検討 ・学習環境の充実と学びの基礎力の育成

(3) 研究体制



・平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

(1) 教科担任制について

多学年にまたがった教科担任制は，授業時間の組み方が複雑で授業交換の融通が利きにくいといった難点はあるが，教師の専門性が生かされ，児童の興味関心に応じた対応がしやすい。また，他の学年に出授業し合い，授業の進め方や児童の理解状況について語り合うことで系統性を大切にされた教科経営がしやすい。

(2) TTについて

初めは補足的な形態が多かったTTであるが，研修や各々の工夫により，学習内容に応じた柔軟な動きができるようになってきた。授業をリードするT1と児童の側にたつT2，3とが協力し合うことで，一人一人の状況が大変捉えやすくなった。また，学年，単元によってT1，T2を担当し合うことで児童一人一人の状況や教師に必要

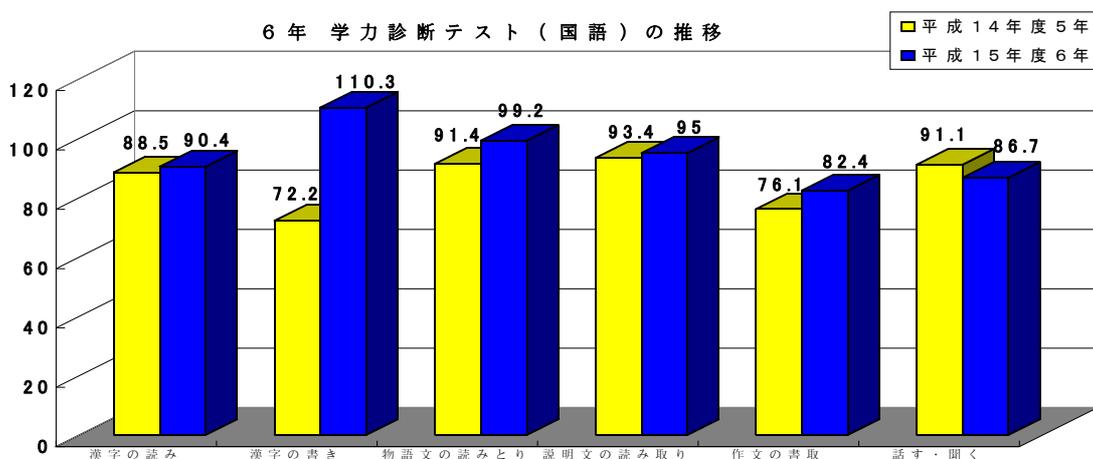
な動きが分かり、教師の意識の変容が見られた。

(3) 児童の学習状況について

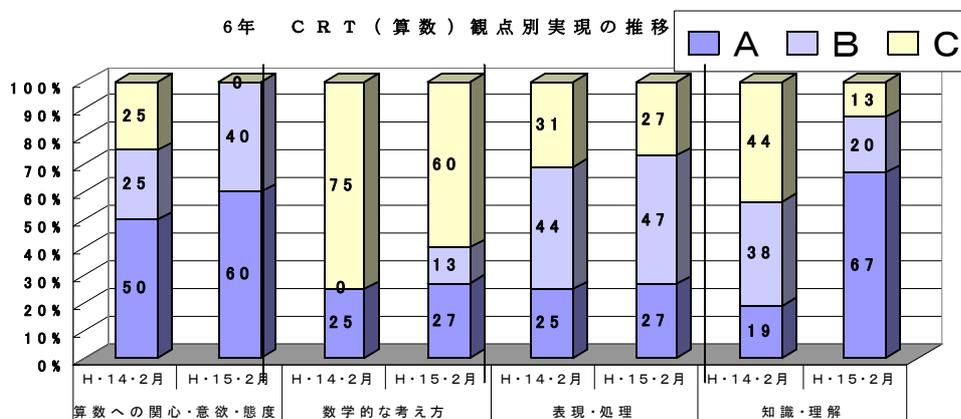
授業、朝自習、家庭学習等の取り組みが良くなり、話を聞いたり、問題に向かう姿に意欲や向上心が出てきた。児童一人一人の特性やつまずきの状況を、担任外の教師も共通理解しており、授業や生活の中で励ましたり、相談に乗ったりすることで早期対応につとめることができた。

下図は、現6学年の学力診断テスト正答率の推移（国語）とC R Tの観点別実現の推移（算数）である。まだ十分ではないが、全体に正答率の上昇が見られ、また観点別の実現状況も高まったことが分かる。

県「学力診断のためのテスト」正答率の推移（国語）（県正答率 = 100%）



C R Tの観点別実現の推移（算数）



2 今後の課題

(1) 教科担任制とT Tの工夫・改善

教師の専門性を生かし、児童一人一人により適切な対応ができるように授業の組み分けの編成を工夫・改善する。

(2) 評価を生かした指導計画・学習計画の工夫

学習過程での評価や学習後の到達度・定着度の評価を生かし、速やかに適切な発展・補充教材を提供したり、次の学習計画に反映していく体制作りに努める。

(3) 地域・家庭や小中学校との連携

児童の学習・生活状況について、互いに共通理解に努め、より良い児童育成のために協力し合う体制づくりに努める。

(4) フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力等把握のための学校としての取組

(1) 県「学力診断のためのテスト」

目的・・・前年度学習内容の定着の度合いを測り、本年度の指導計画作成・児童支援の参考にする。

実施内容・・・4・5・6学年（国語・算数・理科・社会）

時期・・・平成15年4月17・18日

(2) 教研式標準学力検査（NRT）

目的・・・児童一人一人と学級全体の機能・創造性の特徴を知り、学習ペースや課題解決スタイルを考慮に入れた支援の参考にする。

実施内容・・・2・4・6学年（知能偏差値・学習基礎能力偏差値）

時期・・・平成15年5月22日

(3) 教研式標準学力検査（CRT）・学習到達度調査（ベネッセ）

目的・・・学級・個人の各教科の学習実現状況を把握・分析し、授業研修の反省と16年度に向けての課題とする。

実施内容・・・1・2学年 教研式標準学力検査（CRT）（国語・算数）

3～6学年 学習到達度調査（ベネッセ）（国語・算数）

時期・・・平成16年2月3日

(4) 学習についての意識調査

目的・・・意識調査の結果を今後の指導に役立て、その変容を捉えると共に児童・保護者の啓蒙を図る。

実施内容・・・全学年（教科・学習に対する興味・関心）

時期・・・平成15年6月下旬

・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

・ 授業公開（平成15年6月5日・10月6日・10月31日）

・ ホームページに研究のページを開設（<http://academic2.plala.or.jp/toride/kensyuu.htm>）

・ 学力向上フロンティア事業についての説明（随時）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下	7 ~ 1 2 学級		
	1 3 ~ 1 8 学級	1 9 ~ 2 4 学級		
	2 5 学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T . T による指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	